

第3分野 支えあい助け合う安心のまち

基本方針3 生きがいもち、 安心できる暮らしの 実現を目指します	年度	平成29年度
	責任部長	健康福祉部長
	責任課長	高齢福祉課長
	責任課	高齢福祉課
	関係課	—

【施策名】	【主管課】	【関係課】
① 生きがいづくりと社会参加の推進	高齢福祉課	—
② 地域ぐるみの介護予防の推進	高齢福祉課	—
③ 生活支援・介護サービスの充実	高齢福祉課	—
④		—
⑤		
⑥		

■基本方針に関連する昨今の社会経済情勢及び関連データ

◆全国・県・圏域等の状況及び関連データ	◆本市を取り巻く状況及び関連データ
介護が必要となる可能性の高い75歳以上の高齢者数が全国的に増加していることを受け、政府においては地域包括ケアシステムの構築や必要な介護サービスの確保による介護離職ゼロを目指した政策を推進しています。 また、介護保険法の改正(H27)により、新しい介護予防・日常生活支援総合事業が位置づけられ、介護予防サービスについて、地域住民を含め多様な担い手が参画する仕組みづくりをめざしていくこととなりました。	本市の高齢化率は平成28年4月現在で34.17%となっており、全国平均を約7.5ポイント上回っています。 介護保険における要支援・要介護認定者数は、平成20年度末現在で2,057人でしたが、平成27年度末現在で2,548人となり、7年間で約500人増加しています。 こうした状況を受け、ひとり暮らし高齢者の見守り対策や認知症対策等への社会的関心が一層高まっています。

■基本方針に従い施策を進める上での重要課題

- 本市において、生きがいもち安心できる暮らしの実現を目指すためには、次の課題を解決していく必要があります。
- ・ひとり暮らし高齢者等への多層的な見守り体制づくりや生活支援の担い手確保
 - ・介護予防の推進による要介護・要支援高齢者の抑制
 - ・認知症に関する多様な課題への対応
 - ・介護職員の人材不足の解消

■目指す姿及び指標

目指す姿(目標)	達成状況(各年度の最新値)							
	現状値(H26)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(実績)	H32(実績)	目標値(H32)	
社会の中で居場所と役割を持ち、生きがいを持って暮らし続けられる高齢者や、必要な生活支援を受けながら安心して暮らし続けられる高齢者が増加し、誰もが充実した高齢期を地域で過ごすことができます。								
目指す成果(成果指標)	関連施策	単位	総合戦略					
▶ 趣味や生きがいのある人の割合の増加	①	%		76.8	-	-		90.0
▶ シルバー人材センターの会員数の増加	①	人(ストック)	○	456	472	483		510
▶ 65歳以上高齢者数に占める要支援・要介護認定者数の割合の抑制	②	%		17.1	17.3	17.5		19.0
▶ 認知症サポーター養成講座修了者の数の増加	②	人(ストック)	○	2,568	3,300	3,549		4,300
▶ 高齢者生活支援サポーターの数の増加	③	人(ストック)	○	0	51	76		180

■関連する市民アンケート調査の状況

	現状値(H26)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	H31(実績)	H32(実績)	目標値(H32)
▶ 老後の生活について不安や心配を感じる市民の割合(%)	76.5	-	-				50

■基本方針及び構成施策に関連する事務事業の状況について

【関連する事務事業の成果と課題】

①生きがいがづくりと社会参加の推進

【成果】

シルバー人材センターにおいて、一般企業等への労働者派遣事業及び家事援助サービスに力点を置いた活動を展開し、会員数は472人(H28年度末現在)から483人(H29年度末現在)へと増加しました。

【課題】

シニアクラブの会員構成が全体的に高齢化し、主体的かつ活発な活動が徐々に困難になってきているため、時代に即した活動内容への見直しと若手高齢者の加入を促進していく必要があります。

②地域ぐるみの介護予防の推進

【成果】

うんどう教室終了後に、4地区で自主運動グループが生まれました。また、既にある自主運動グループのうち2か所の活動日が月1回から週1回に増加しました。

【課題】

住民主体の介護予防活動を進めるための仕組みづくりと認知症の方の見守り強化が急務となっています。

③生活支援・介護サービスの充実

【成果】

生活支援コーディネーター(専任1人、兼任7人)を配置し、あわせて生活支援活動のネットワーク組織(協議体)を設置したことで、住民主体の支え合い・助け合い活動の推進体制づくりを進めることができました。

【課題】

介護サービス事業所等で働く介護人材の確保と、地域コミュニティでの生活支援の担い手の確保が必要です。

【決算データ及び構成事務事業の実施状況】

施策名	H28決算額(千円)	H29決算額(千円)	構成事務事業の実施状況(H29)				
			a	b	c	d	小計
① 生きがいがづくりと社会参加の推進	39,299	38,838	0	6	0	0	6
② 地域ぐるみの介護予防の推進	25,204	110,859	0	6	1	0	7
③ 生活支援・介護サービスの充実	37,606	79,545	0	19	2	0	21
④							0
⑤							0
⑥							0
小計	102,109	229,242	0	31	3	0	34

a: 順調に実施されており、成果が表れている事務事業

b: 概ね順調に実施されており、一定の成果が表れている事務事業

c: 概ね順調に実施されているものの、目指す成果が表れていない事務事業

d: 実施状況及び目指す成果ともに停滞している事務事業

■総合評価(基本方針に基づき目指す姿がどのような状況にあるか)

総合評価

B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

【成果指標を踏まえた評価及びその理由】

①生きがいがづくりと社会参加の推進

シルバー人材センターの会員数は目標値に近づいており、施策の効果が認められます。

②地域ぐるみの介護予防の推進

65歳以上高齢者数に占める要支援・要介護認定者数の割合は、後期高齢者の割合が増える中、上昇傾向にある見込値から1%抑制することを目標としていますが、現時点で目標水準を維持していることから、施策の効果が認められます。

③生活支援・介護サービスの充実

高齢者生活支援サポーターの数は、年間30人のストックを目標としていますが、年間約25人のペースとなっており、今後の施策推進に関して努力を要します。

【アンケート等市民の意見を踏まえた評価及びその理由】

①生きがいがづくりと社会参加の推進及び②地域ぐるみの介護予防の推進

H29年1月に実施したアンケート(日常生活圏域ニーズ調査)では、「地域における生きがいがづくり・健康づくり活動に参加したいか」という問いに対し、59.5%の方が参加の意向を示しましたが、一方で32.8%の方は参加したくないと答えています。社会参加と介護予防の重要性について、一層注力して市民啓発に取り組んで行く必要があります。

■今後の展開

【今後の展開】

①生きがいづくりと社会参加の推進

一般企業への派遣労働や家事援助サービスなど、シルバー人材センター会員の活躍の場の一層の拡大を図ります。

②地域ぐるみの介護予防の推進

住民主体の介護予防活動の一層の活発化を図るため、より身近な場所での通いの場の設定を進めます。また、認知症の方の安全対策など市民生活の中でニーズの高い課題について有効な施策を組み立てます。

③生活支援・介護サービスの充実

介護サービスの人材不足問題の解消に向けた施策を強化し、必要なサービスが安定的に供給できる体制を整えます。また、介護保険で対応できない課題に対応できるよう、住民主体の生活支援活動の活発化を図ります。

【具体的な手法又は事務事業名等】

①生きがいづくりと社会参加の推進

引き続きケーブルテレビ等でシルバー人材センターの広報を積極的に行い、会員の増加を図ります。また、市からシルバー人材センターに委託している家事サポート事業の活用を拡大し、会員の活躍の場を拡げます。

②地域ぐるみの介護予防の推進

保健センター等で実施している自主うんどう教室を完全自立化し、地区集会所等身近な場所できめ細かく実施できるよう進めます。また、認知症の方の安全確保に向けて、GPS機器等による対策を新たに進めます。

③生活支援・介護サービスの充実

介護職員初任者研修受講費用の助成のほか、市内の高校との連携による介護職養成の仕組みづくりを新たに進めます。また、社会福祉協議会に委託して配置している生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を中心に、生活支援活動を行う住民グループの立ち上げ支援を進めます。

■関連する個別計画の有無

有

郡上市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画
郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略